

令和元年11月号
2019年11月1日
Vol.5

いしかわ農業法人だより

Ishikawa Agriculture Corporation Magazine

発行 石川県農業法人協会 いしかわ農業総合支援機構内 発行人 佛田利弘
〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20 Tel 076-225-7621 Fax 076-225-7622

石川県農業会議山田会長と勉強会

10月11日、ホテル日航金沢にて石川県農業会議の山田会長（参議院議員）をお招きし、最近の農業をめぐる情勢について講演いただきました。

稲作経営体については1人あたり15haの管理ができる作業体系の

確立ができれば、農業者数減少の課題も解決に近づくのではないかと思います。しかしながら一方で能登地区のような山間部では法面の除草作業等、一人あたりの作業負担が大きいことから、地域ごとの課題に取り組んでい

くことが重要であるとの意見もありました。

その為にも、今年度から実施している地区ごとの意見交換会をさらに活発化させ課題の共有する等、皆さんで石川の農業をより良い環境にしていきたいと思います。

農水省経営局の依田経営政策課長との意見交換

山田農業会議会長の講演に先立ち、農水省経営局経営政策課の依田學課長との意見交換が行われました。対象は、主に稲作経営で人・農地プランについての取組の対象となる役員と行われました。現在、農水省は、人・農

地プランの実質化を進めており、そのための課題や取組事例について現場の意見を聞くということで行われました。能登や加賀の稲作の実態や農地の集積などが議論となったほか、地域での話し合いを進める上で、特に、

石川県農業法人協会の地区活動について注目され、現場での合意形成などに議論が及びました。経営政策課の御村法人班長、北陸農政局小林次長ほか農政局関係者、石川県からもご臨席頂き、議論を行いました。

第3回理事会

10月11日に第3回理事会を開催いたしました。まず、今年度の活動方針でもあります「連携」を強化するために来年1月に開催する賀詞交歓会については、1月15日（水）16時からマリエールオークパイン金沢で開催す

ることが決まりました。また、佛田会長から各農業法人がどのような分野の企業との連携を求めているかを調査する企業連携アンケートが提案され、実施することとなりました。会員の皆さん、ご協力よろしくお願いします。

日本農業法人協会設立20周年記念行事の一環で行われる若手農業者による経営コンクールの公募について、県内から2名の応募があったことから、次回第4回理事会において県代表を選抜することになりました。





<コラム>

加賀地区の意見交換会で、すべての地区の1回目の意見交換会が終わりました。すべてに参加させて頂きましたが、いずれの会も大変充実した意見交換会でした。具体的な悩みや取り組むべき課題に話が及びました。さて、もう一度年度内に集まって、来年度に向けて何に取り組むか。ぜひ議論してください。石川県農業法人協会は、石川県の農業の一翼を牽引する立場として、関係者と情報交換。協力をし、具体的な取組を行う農業法人を支援する活動をおこなってゆくことが重要だと思います。

会長 佛田利弘

日本農業法人協会北信越ブロック農業法人研修交流会に参加

10月23日～24日に新潟県上越市高田で開かれた北信越ブロック大会に参加しました。会員の参加者は、佛田会長、宮崎副会長、井村副会長(日本農業法人協会副会長)、林副会長、吉田副会長、宮野専務、竹本理事、瀬爪理事が参加されました。当県の取組を佛田会長が発表しました。

地区活動をはじめとする三層戦略で、現場の経営に近づく取組を行う内容が報告されました。その後は、前長野県会長の島崎日本農業法人協会副会長のコーディネーターで、各県の発表者と基調講演の講師の青山浩子さんが助言者となり、農業法人をどうしてゆくか、パネルディスカッション

が行われました。終了後は、懇親会となり、参加者で懇親を深めました。

翌日は、農研機構中央農業センター北陸拠点(旧北陸農業試験場)で、最近の品種や技術開発の話聞き、有限会社穂海農耕を視察しました。

技術経営委員会からの要望募集

今年度から設置された技術経営委員会(委員長:濱田栄治氏)から先に開催された第3回理事会において、肥料、農薬、GAP等に関する勉強会など、取り

組みたいテーマや要望があれば、委員会まで提出してほしいとのお知らせがありました。

当委員会では、勉強会等の実施を通して各関係機関との連携を図

りながら、現場サイドでの具体的な取り組みを行い、各経営体へフィードバックしていく方針で活動しています。

(有)安井ファーム内閣総理大臣賞受賞

(有)安井ファームが令和元年度(第58回)農林水産祭において内閣総理大臣賞(園芸部門)を受賞されました。

空き農地の少ない地域において、麦跡水田の未利用期間に着目し、「期間借地」によるブロッコリー生産の拡大や

従業員の主体性を育む人材育成を実践していることが評価されました。

南加賀地区意見交換会

10月15日に南加賀農林事務所で、南加賀地区(当協会会員6名)にて意見交換会が行われました。

特に、明峰ファームの平均反収580kgには、驚きの収量の話を知ることができ、現在の法人協会の取組につい

ても議論となりました。農林事務所からも参加頂き大変有意義な会となりました。

本日より配布対象 会員・賛助会員・アグリサポート会員・関係機関会員の皆様へ

「いしかわ農業法人だより」をメールでの配信を希望される方は、協会事務局の(南出、島田、吉田)まで連絡願います。

e-mail : syogo-y@inz.or.jp